

令和6年度 第2回 裾野市中小企業等振興推進会議 議事録

日時 令和7年3月5日（水）

13：30～14：45

会場 裾野市役所 地下会議室B

<構成委員>

出席委員：9名（渡邊昌志、田口建一、渡辺正高、堀口綾子、荻島昭章、三宅大介、
土屋秀之、大嶋孝治、加藤豊）

欠席委員：3名（中川智敏、松林亨、室伏ゆり江）

議長：渡邊昌志委員

<配布資料>

別添のとおり

<会議内容>

1. 開会

2. 議長挨拶

円滑な会議の協力をお願いしたい。

3. 議事

(1) 市内の創業の状況について

① 裾野市

事務局説明（資料1、2、3について説明）

質疑なし

② 裾野市商工会

商工会説明（〈裾野市商工会資料〉について説明）

【質疑】

（議長）

- ・創業相談は令和5年度に5件だが、すべて創業したということか。また、そのうち2件が特定創業支援を実施しているということか。

(商工会)

- ・お見込のとおり

(議長)

- ・会社設立時の登録免許税の減免とあるが、登録免許税はどれくらいなのか。

(事務局)

- ・株式会社の場合は、15万円又は資本金額の0.7% どちらか高い方。
- ・合同会社の場合は、6万円又は資本金額の0.7% どちらか高い方。
- ・減免の適用を受けると1/2となる。

(A委員)

- ・商工会に創業の相談に来る人は、どこで商工会を知ったのか。

(商工会)

- ・チラシやウェブサイトを見て来る人が多い。事前に電話で問い合わせをしてくる方もいる。

(A委員)

- ・創業したいがどこで相談していいか分からないという知人がいた。商工会で相談を受け付けていることをより広報したほうが良い。

(議長)

- ・知らない人の方が多いと感じる。確かに周知をした方が良いと思う。

(商工会)

- ・承知した。

(議長)

- ・特定創業支援自体が知られていないということもあるのか。

(事務局)

- ・市のウェブサイトで周知している。

(商工会)

- ・商工会のウェブサイトでも周知している。

(2) 令和7年度の市事業について

事務局説明（資料4について説明）

【質疑】

(議長)

- ・スポーツツーリズム事業を行っていることを初めて知った。市外の人が裾野市に住んだり、訪れたりすることは、結果的に中小企業にも良い影響が出ると思う。スポーツツーリズム事業も積極的に行ってほしい。

(B 委員)

- ・ 勤労者住宅建設資金援助事業や勤労者教育資金援助事業があるが、目立っていない印象を受ける。

(議長)

- ・ 件数的にはどれくらいの実績なのか。

(C 委員)

- ・ 地域勤労者のための事業であり、年間 50 件程度。
- ・ 住宅建設資金は上限 1,000 万円を当初の 10 年間、0.5%利子補給をしている。
- ・ 教育資金は、上限 300 万円を最長 5 年間、1.0%利子補給している。
- ・ 各企業の組合を通じてチラシを配布したり、ハウスメーカーを通じて案内があったりする。

(事務局)

- ・ 中小企業に対する支援というよりも、中小企業に勤務している労働者向けの制度である。労働金庫で融資を受けた場合にこの制度が利用できる。
- ・ 勤労者が労働組合に資金の相談をすると、この制度が紹介される仕組みになっている。

(B 委員)

- ・ 中小企業の経営者ではなく、勤務している人向けの事業ということで承知した。

(事務局)

- ・ 勤労者の福利厚生の一環として実施している。他にもベネフィ駿東や職業訓練センターの運営費に負担金を支出している。

(3) 意見交換

(事務局)

- ・ 前回の会議を受け、企業向けメールマガジンの登録募集を広報紙に掲載した。
- ・ 三島信用金庫が、裾野駅前に裾野支店と裾野東支店を統合して、2025 年冬に移転オープンする。
- ・ 3 月 8 日に市主催で就職相談会を開催する。今年の反省を踏まえた上、来年度も開催する予定。
- ・ 県制度融資について紹介。市としても特別政策資金利子補給を行っている。
- ・ よろず支援拠点について説明。以前は南富士山シティがあったが、終了したことで、裾野市内の創業支援が低迷していた。市と商工会が連携しながら、よろず支援拠点を活用していきたい。

(D 委員)

- ・よろず支援拠点は、無料で相談をすることができる。商工会としても、行政と連携しながら取り組んでいきたい。

(B 委員)

- ・就職相談会の広報について、市 LINE に何度か載せたほうが良いと思う。

(E 委員)

- ・企業向けメールマガジンについて、中小企業団体としても掲載依頼をすることは可能か。

(事務局)

- ・可能である。市としても周知したい。

(E 委員)

- ・創業の相談について、会計士や行政書士を経由して商工会を紹介されることはあるのか。

(商工会)

- ・現時点ではない。

(F 委員)

- ・出生数が減少している中で、従業員をどう確保していくかが問題になっていると思う。ハローワークだけで、社員の確保はできるのか気になっている。

(議長)

- ・売り手市場の中で、就職先として中小企業が選ばれることが厳しくなっている。
- ・人口減少社会にもかかわらず、人口を増やしている自治体もある。そのような自治体ではどのような施策を行っているのか研究することも必要だと思う。人口が増えることで、中小企業にも良い影響がある。

(G 委員)

- ・ウーブンシティの内部について公開されたが、商工会としても情報収集に努めていきたい。

(C 委員)

- ・情報提供として、現在、中途退職者が増えている。働きやすさや、やりがい重視する傾向にある。

(A 委員)

- ・市役所、商工会、観光協会などそれぞれで縦割りになっている印象にある。横のつながりが強化されればいいと思う。

(B 委員)

- ・裾野市の人口動態を見ていると、家族世帯が転出し、単身者が転入している傾向にあると思う。また、外国人労働者が増えている印象がある。

(事務局)

- ・出生数自体が減少している。
- ・外国人については、1 年間で 100 人近く増加している。

(議長)

- ・ふるさと納税が成功したことで移住者支援に力を入れ、人口が増加している自治体もある。
- ・人口減少に対し、裾野市として何かできるかを検討していく必要がある。
- ・それが結果的に、中小企業にも良い影響がでる。

(B 委員)

- ・ふるさと納税に関連し、商工会の会員と新たな商品開発もできると良い。

(議長)

- ・この会議が、具体的な施策を検討していく場になっていければ良い。行政と協力していきたい。

4. 連絡事項

- ・委員報酬については、今後振込を行う。
- ・今回の議事録については、市ウェブサイトに掲載する。

5. 閉会